

もっと知りたい

⑩

塚穴古墳

千曲市指定史跡

塚穴古墳は、稻荷山篠山の標

にあります。

高五一〇尺、通称「陣ヶ窪」と呼ばれている山腹にある古墳で篠山から東南東に伸びた支脈の突端近くにあります。

また、塚穴古墳の北側には、

越将軍古墳があり、両古墳とも、稻荷山・桑原地区を眼下に、南西側に聖山・冠着山を望み、東側に千曲川を見下ろす景勝の地

墳丘は実測の結果直径一五尺で、高さは谷側から三尺、山側から約一メルです。

内部構造は、真南に向けて開

口する横穴式石室で、玄室は完存しています。

羨道部と天井石

を失い、石室の

規模は玄室の長さ五尺、奥壁幅二・七尺高さ二・

五メルとなつてい

ますが、羨道部

幅の長さは、当

初は四メル近くあ

つたものと考えられます。奥壁

は大石を二枚並べ、上に横長の



玄室(注1)から羨道(注2)

し、側壁は基部



入り口

森将軍塚古墳館
学芸係

小野 紀男

(注1)横穴式石室の納棺室
(注2)玄室への通路

墳丘の裾が一部削り取られていますが、大部分は当初の墳丘を残しています。

墳丘は実測の結果直径一五尺で、高さは谷側から三尺、山側から約一メルです。

内部構造は、真南に向けて開

口する横穴式石室で、側壁の下部から上方に向かって壁石

を持ち送りにしているのは、こ

の地方通有のものです。

(約千四百年前)にかけてのものと考えられます。

市内で高所に横穴式石室を設

けた古墳は坂山古墳(土口)、

堂平古墳(土口)、大岩古墳(寂

石室の形などから、六世紀後半

築造された横穴式石室を持つ古

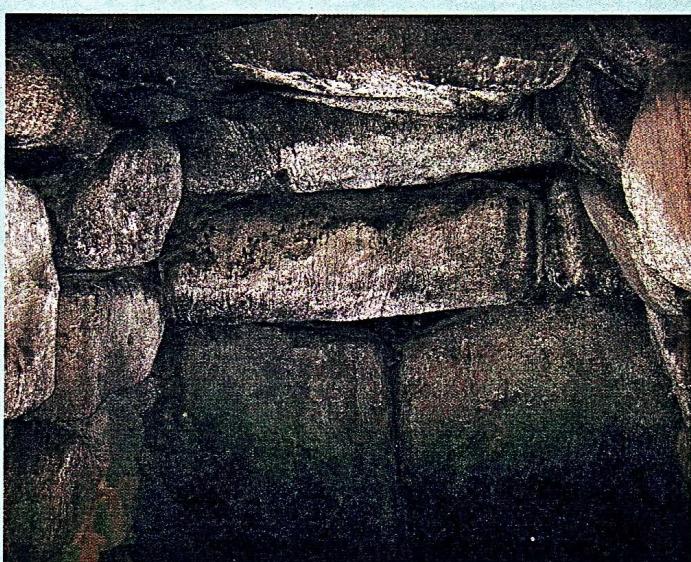
墳で、出土品はありませんが、

石室の形などから、六世紀後半

築造された横穴式石室を持つ古

墳で、出土品はありませんが、

と羨道の間は西側から袖石を出し、さらにその上部に梁石を渡して、玄室を区画しています。



奥壁